

研究課題名（課題番号）：医療的管理下における介護及び日常的な世話が必要な行動障害を有する者の実態に関する研究（H27 - 身体・知的 - 指定 - 001）

### 分担研究報告書

#### 分担研究課題名：知的障害児者施設における医療の課題と方向性に関する研究

研究分担者：小倉 加恵子（森之宮病院神経リハビリテーション研究部研究員）

#### 研究要旨

本研究では、知的障害等の障害児者が利用する福祉関連施設における医療の役割について調査し、サービス充実化に向けた対応策を検討することを目的とした。昨年度、小児神経学会認定の専門医 1,100 名を対象とした郵送法によるアンケート調査を実施し、障害者福祉関連施設における医療の充実化が喫緊の課題であることがわかった。今年度は福祉と医療の連携を軸に二次解析を実施した。医療と他領域の連携は 91.9%が実践しており、医療と福祉の連携は 66.5%で実施されていた。医療と福祉の連携向上、福祉関連施設での勤務経験の増加、福祉における医療についての専門研修受講の推進の 3 点が福祉関連施設における医療の充実化に関与すると考えられた。医療と福祉の連携はすでに実践されているところではあるが、経済的・時間的コスト面の問題が大きく、継続した体制が得られていない。解決策としては、現在実践されている連携状況を評価し、適正に保険診療点数を見直すことが必要と考えられた。また、連携する両者のコスト軽減と連携の効率化向上のために、領域間で知識を共有するための機会や各領域に通じる専門性をもったコーディネーターの育成も必要と考えられた。

#### A．研究目的

地域や施設で提供される障害児者施設利用者への医療的なサービス拡充のための対応策を講じるために、昨年度、障害児者医療の専門領域の一つである小児神経科の専門医 1,100 名を対象としたアンケート調査を実施した。福祉関連施設における医療の必要性を感じるものは 91%と高率で、サービス利用者の病態の重度化・複雑化や高齢化など近年の変化に応じて、福祉関連施設における医療ニーズは高まっていることが示された。その一方で、福祉関連施設における医療の困難さを感じるものは 69%であり、充実化に向けて施設設備や医療にかかる人

の時間を要するため、時を移さず対応するためには地域医療との連携が一つの解決策となり得る。そこで本研究では、昨年度実施したアンケート調査の二次解析をおこない、小児科・小児神経科と他領域との連携状況とその課題について検討した。

#### B．研究方法

アンケート調査の対象は、日本小児神経学会が認定した小児神経専門医資格を取得している医師会員とした。「日本小児神経学会における会員名簿等の情報提供に関する要項」に則った手続きを行い提供された 1,110 名の宛名票を用い、2016 年 8 月 17

日～10月31日を調査期間として、郵送法によるアンケート調査を実施した。今回は、前年度の解析に使用しなかった小児科・小児神経科の仕事を通じた他領域との連携状況に関する項目を中心に解析した。

(倫理面への配慮)

本研究の実施にあたっては関連する指針や法を遵守し、個人情報保護及び研究対象者の人権擁護に対して十分な配慮を行った。また、データの漏洩などを防ぐため、厳重なセキュリティを設けてデータの保管を行った。本研究では匿名によるアンケート調査をおこなっているため、特定の個人を同定することはできない。本研究に企業との利益相反はない。

### C. 研究結果及び考察

アンケートの回収数は568名、回収率は51.2%であった。回答者の医師経験年数は10年以内が10名、11～20年が190名、21～30年が165名、31～40年が172名、41年以上が26名、未回答が5名であった。小児科・小児神経科の仕事を通して他領域と連携していると回答した者は522名(91.9%)であった。連携している領域としては、教育439件(77.3%)、福祉378件(66.5%)、保育337件(59.3%)、保健312件(54.9%)、就労88件(15.5%)、その他21件であった。その他として自由記載に記述のあった連携先は、行政、司法、患者団体、在宅サービスなどであった。また、連携方法としては、医師本人による連絡319件、病院・医院のMSW(Medical Social Worker)による連絡272件、地域連携会議などの会議・会合250件、病院の地域連携関係の部署による調整237件、その他64件であった。その他とし

て自由記載があった連携方法としては、外来受診時に保護者とともに他領域の職員が同席、特別支援学校訪問、園医・校医としての活動、講演・講義などによる教育、行政主体の事業、相談支援専門員など地域のコーディネーター、教育委員会などへの専門家としての参加、患者団体の役員、書面でのやりとりなどであった。

福祉関連施設での勤務経験が連携状況に影響するかどうかを検討するために、統計解析をおこなった。アンケート調査では、福祉関連施設での勤務経験については、あり251名(44%)、なし317名(56%)であった。福祉関連施設での勤務経験の有無と他領域との連携の有無について二乗検定をおこなったところ、有意な関係は認めなかった( $p=0.177$ )。そこで、福祉関連施設での勤務経験の有無と福祉領域との連携の有無について二乗検定をおこなったところ、福祉関連施設での勤務経験がある場合、有意に福祉関連施設との連携が多かった( $p<0.05$ )。

次に、専門研修の受講が連携状況に影響するかどうかを検討するために、統計解析をおこなった。アンケート調査では、「福祉関連施設における医療」に関する専門研修について、受講したことがあると回答した者は108名(19%)であった。専門研修の受講経験の有無と他領域との連携の有無について二乗検定をおこなったところ、有意な関係は認めなかった( $p=0.128$ )。そこで、専門研修の受講経験の有無と福祉領域との連携の有無について二乗検定をおこなったところ、専門研修の受講経験がある場合、有意に福祉関連施設との連携が多かった( $p<0.05$ )。

連携上の困難点・改善を望む点としての回答を自由記載として回答を求めた。記載内容から得られた意見は次の通りである；お互いの領域についての知識不足、医師の時間不足、ケースワーカー・スクールソーシャルワーカーなど連携に関わる専門職の不足、医師個人の努力に任されている状態、会合や面談は診療報酬に結びつかない（勤務医の場合は、雇用者から無報酬の連携活動が認められない場合がある）、一方的な情報提供に終わる、医療以外の領域では担当者が短期間で変わるため継続性がない、個人情報保護の壁、自治体による体制の差異、就労人事者との面談が困難などであった。

#### D．考察

今回、昨年度実施したアンケート調査の二次解析をおこない、小児科・小児神経科と他領域との連携状況とその課題について検討した。アンケートに協力が得られた小児神経科専門医のほとんどが医療以外の領域と連携しており、その中でも福祉領域は連携先として大きな割合を占めていることがわかった。

今回の解析により、医療と福祉の連携向上、福祉関連施設での勤務経験の増加、福祉における医療についての専門研修受講の推進の3点が福祉関連施設における医療の充実化に関与すると考えられた。

現状の問題点としては、連携先や連携方法によっては連携のための行為が保険診療上の報酬として認められておらず、医師の個人的な努力に委ねられている状態であったり、体制が整っていないために継続的な連携が困難という点があげられる。昨年度の研究結果では、障害者福祉関連施設にお

ける医療のニーズは高まっており、その充実化に向けて人的・環境的整備が課題とまとめた。対応策の一つとして、福祉関連施設と医療施設との連携が重要なポイントとなるが、現状ではここにも課題があることが明確化された。医療と福祉の連携体制の整備はもとより、そこにかかる経済的・時間的コストの問題をクリアにしないままでは継続した連携体制を構築することは難しい。解決策の一つとしては、現在実践されている連携状況を評価し、適正に保険診療点数を見直すことが必要と考えられた。また、連携する両者のコスト軽減と連携の効率化向上のために、領域間で知識を共有するための機会や各領域に通じる専門性をもったコーディネーターの育成も解決策の一つとなると考えられた。

#### E．結論

現在、障害者福祉関連施設における医療のニーズは高まっており、その充実化が喫緊の課題であることがわかった。医療と福祉の連携向上、福祉関連施設での勤務経験の増加、福祉における医療についての専門研修受講の推進の3点が福祉関連施設における医療の充実化に関与すると考えられた。医療と福祉の連携はすでに実践されているところではあるが、経済的・時間的コスト面の問題が大きく、継続した体制が得られていない。解決策の一つとしては、現在実践されている連携状況を評価し、適正に保険診療点数を見直すことが必要と考えられた。また、連携する両者のコスト軽減と連携の効率化向上のために、領域間で知識を共有するための機会や各領域に通じる専門性をもったコーディネーターの育成も解

決策の一つとなると考えられた。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

市川宏伸、小倉加恵子. なぜ、メンタルヘルスなのか？小児内科. 5 : 639-644 : 2017

小倉加恵子. 理学療法. 日本 LD 学会(編). LD・ADHD 等関連用語集(第4版). 日本文化科学社. 東京. 187 : 2017

小倉加恵子. 親の要因. 秋山千枝子, 小枝達也, 橋本創一, 堀口寿広(編). 育てにくさの理解と支援 診断と治療社. 134-138 : 2017

小倉加恵子. 親の要因. 秋山千枝子, 小枝達也, 橋本創一, 堀口寿広(編). 育てにくさの理解と支援 診断と治療社. 134-138 : 2017

### 2. 学会発表

小倉加恵子、川上康彦、鈴木由香、宮島祐. 小児神経 2035. 第 59 回日本小児神経学会学術集会. 2017 年 6 月 15 日. 大阪

小倉加恵子、市川宏伸. 小児神経科からみた福祉関連施設における医療の役割. 第 76 回日本公衆衛生学会学術集会 2017 年 11 月 2 日. 鹿児島

小倉加恵子. 障害児家族の適切な親子分離をはかり親子それぞれの社会的自立を促すための支援パッケージ開発に関する研究. 平成 29 年度 AMED 脳と心の研究課研究交流会. 2017 年 11 月 30 日. 東京.

北井征宏、小倉加恵子、大村馨代、平井聡里、荒井洋. 多嚢胞性脳軟化症による脳性麻痺四肢麻痺児の合併症に関する後方視的検討. 第 59 回日本小児神経学会学術集会. 2017 年 6 月 17 日. 大阪.

Kitai Y, Arai H, Hirai S, Ohmura K, Ogura K. Brainstem and peri-rolandic injury affects the practical way of feeding among the children with cerebral

palsy due to basal ganglia and thalamic injury. 第 71 回アメリカ脳性麻痺・発達医学学会. 2017 年 9 月 13 日 ~ 16 日. カナダ・モンリオール.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

## 小児神経科向けアンケート

問1 先生の経験年数を教えてください。 \_\_\_\_\_ 年

問2 福祉関連の施設で勤務したことがありますか（常勤、非常勤のいずれでも）。

ア ない 問5へ

イ ある 下記の番号から該当するものを選択してください。複数回答可。

1. 福祉事務所
2. 知的障害者更生相談所
3. 身体障害者更生相談所
4. 児童福祉施設

（児童福祉施設は、下記の a ~ i の該当項目を選択して下さい。複数回答可。）

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| a. 乳児院         | b. 母子生活支援施設     |
| c. 児童厚生施設      | d. 児童養護施設       |
| e. 障害児入所施設     | f. 児童発達支援センター   |
| g. 情緒障害児短期治療施設 | h. 児童自立支援施設     |
| i. 児童家庭支援センター  | j. その他（ _____ ） |

問3 問1で「ある」と答えた方にお尋ねします。

勤務状況について該当するものを選択し（複数回答可）

（ \_\_\_\_\_ ）に該当する施設番号と勤務状況を記載してください。

例）非常勤として、福祉事務所で2日/1週、及び、児童発達センターで1日/1か月勤務されている場合。

- ・福祉事務所で1日/1か月 1 - 2 と回答
- ・児童発達センターで2日/1週間 4 f - 1 と回答

ア 常勤（ \_\_\_\_\_ ）

イ 非常勤（ \_\_\_\_\_ ）

非常勤の場合、下記から勤務時間を選択してください。

1. 1日/1週以上
2. 1日/1か月以上 1日/1週未満
3. 1日/4か月以上 1日/2か月未満
4. 1日/1年以上 1日/4か月未満

問4 問1で「ある」と答えた方にお尋ねします。施設において医療行為を行うための困難さはありましたか。

ア 困難さは感じなかった

イ 困難さを感じた

どのような点に困難さを感じましたか。下記1～5から選択してください。

(複数回答可)

1. 医療を行うための施設設備が整っていない
2. 医療を行うための人的体制が整っていない(下記a～cから選択ください)
  - a. 医療専門職が不足している
  - b. 職員の医療に対する知識不足
  - c. その他( )
3. 診療するための時間が確保できない
4. 福祉関連の施設で可能な医療行為の範囲がわからない
5. その他( )

問5 問1で「ない」と答えた方にお尋ねします。

機会があれば福祉施設で働きたいと思いませんか。

ア はい

イ いいえ

いいえの場合、その理由を下記から選択してください。(複数選択可)

1. 他にやりたいことがある
2. 給与面で不安がある
3. 勤務形態が分からない
4. 職場に必要とされる技能が分からない
5. 専門性が不足している
6. 専門性が生かせない
6. その他( )

問6 小児科・小児神経科の仕事を通して、他領域と連携していますか。

ア 連携していない

イ 連携している 以下にもお答えください。

1. 連携している領域を下記a～fから選択してください。(複数回答可)
  - a. 保育
  - b. 教育
  - c. 保健
  - d. 福祉
  - e. 就労
  - f. その他( )
2. 連携方法を下記a～e選択してください。(複数回答可)
  - a. 病院の地域連携関連の部署
  - b. 病院・医院のMSW
  - c. 医師本人が連絡
  - d. 地域連携会議などの会議・会合
  - e. その他( )
3. 連携上の困難点・改善を望む点があれば、教えてください。

( )

問7 福祉施設における医療に関して、専門研修を受けたことがありますか。

ア ない

ない場合、機会があれば受講したいですか。

1. したい      2. したくない      3. どちらでもない

イ ある

ある場合、どのような専門研修を受けたか下記から選択してください。

1. 国、都道府県、市区町村が主催する研修会

2. 学会が主催する研修会

3. 学会以外の民間団体が主催する研修会

4. その他( )

問8 福祉施設において、医療は必要と考えられますか。その理由もお答えください。

ア 必要と考える

(理由: )

イ 必要と考える

(理由: )

問9 福祉施設において勤務する医師は不足しています。福祉施設における医療の充実のため、福祉施設で勤務する医師を増加させるための提言をお願いします。

( )

アンケートは以上で終わりです。  
ご協力いただき、ありがとうございました。